

おらほの会社

柴田工事調査(株) の巻



伊藤 慶彦

《はじめに》

柴田工事調査株式会社調査部の伊藤と申します。大変恐縮ではありますが、今回、「おらほの会社」の紙面をお借りしまして、柴田工事調査株式会社をご紹介させていただきます。

《湯沢市の紹介》

概要

柴田工事調査株式会社のある秋田県湯沢市は、県内最大の面積（南北約 60km、東西約 15km）を有する横手盆地の最南端にあります。会社周辺の環境として、南北方向に流れる雄物川、北側に流れる皆瀬川により形成された沖積低地、奥羽山脈の一部である東側の丘陵地とそれに伴う扇状地に囲まれており、それらを利用した耕作が盛んに行われております。冬季は県内でも積雪が多い地域であり、入社前、始業前、帰宅時の雪かきが必須となります。また、湯沢市は古くから秋田の南の玄関口として発展し、絶世の美女として有名な小野小町誕生の地としても知られており、豊かな自然環境と文化に恵まれています。

《ゆざわジオパーク》

前述のような豊かな自然に恵まれている湯沢市は、日本ジオパークに認定（平成 24 年 9 月 24 日認定）されています。ジオパークとは、ジオ（大地・地球）が作りだした豊かな自然に親しみ、ジオを学ぶ旅を楽しむためのもので、日本には 32 地域のジオパークが認定されています。本県ではゆざわ地域を含め、「男鹿半島・大潟地域」、「八峰白神地域」の 3 地域が日本ジオパークとして認定されています。湯沢市内の 16 箇所のジオサイトのうち、私のおすすめのジオサイトを 3 箇所程ご紹介させていただきます。

・院内銀山

院内銀山は、江戸後期の最盛期には銀産出量日本一を誇り、「天保の盛山」と称されました。銀鉱脈は、院内カルデラを形成した火山活動によってできたものだと考えられています。発見から閉山まで約 350 年続いた我が国有数の銀山です。

・高松（三途川・川原毛）

川原毛地獄は、青森県の恐山、富山県の立山と並ぶ日本霊地の一つです。山全体が白い山肌と奇岩に覆われ、特異な自然景観となっています。

・子安

小安峡温泉は、栗駒山から木地山高原に続く山岳地帯にあります。小安峡の谷底からは高温の温泉と蒸気が噴出しており、大地の力強い息吹が感じられます。この地域では地熱資源の活用が盛んに行われており、様々な分野で利用されています。また、初夏の新緑と秋の紅葉の美しさは有名で、年間を通じて多くの観光客で賑わっています。

地球を直接感じることができる湯沢市にぜひ足を運んでみてください。

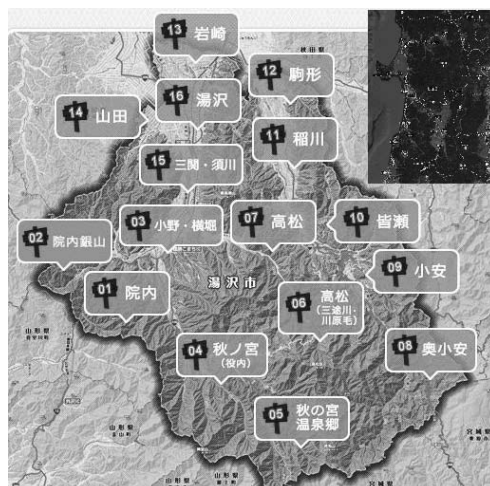


図. 湯沢市のジオサイト

《会社の沿革》

柴田工事調査株式会社は、昭和43年に「柴田工事調査事務所」として創設され、昭和48年に現在の名称となりました。当初は、測量業者として営業しておりましたが、昭和59年に補償コンサルタント業、昭和60年に地質調査業、平成3年に建設コンサルタントの登録を行い、現在の業務体系となっております。

湯沢本社に加え、東京、仙台、秋田、北秋田、大館、能代、大仙、由利本荘、横手に営業所及び支店があります。

《各部門の業務内容》

会社の技術部門は4部門あります。各技術部門の業務内容を簡単にご紹介いたします。

測量部

基準点測量や水準測量、地形測量、流量観測等、様々な測量業務を行っています。

設計部

河川砂防や道路の設計、橋梁の各種設計、橋梁点検業務等を行っています。

用地建築部

地元の方と様々な会話をしながら土地調査や権利調査、建物等の調査を行っています。

調査部

私の所属する調査部ですが、主に構造物の基礎地盤調査を行っています。その他にも土壤汚染調査、道路防災調査、地下水調査、環境調査等の業務も行っていきます。私も早く一人前の技術者になるべく先輩方の指導を受けています。

この他にも、総務部や営業部、技術管理部などを含めた総社員数は約100人となっております。社員一丸となって頑張っております。

《ロゴマークについて》

会社のロゴマークの由来について調べてみたところ、柴田の「S」と工事調査の「工」を組み合わせたものでした。恥ずかしながら、入社4年目にして初めて知りましたので、改めて驚いています。



写真. 柴田工事調査の会社ロゴマーク

《資格取得の奨励について》

業務を受注するために、技術者は経験や知識だけではなく、発注側が求める資格を有していなければならないので、会社では資格取得を奨励しています。実際の例として、効率よく合格の連鎖が続くように、資格試験合格者による合格体験プレゼンテーションを昨年度から実施しています。普段の業務もある中で、合格者はどのようにして学習時間を確保したのか、どのようにしてモチベーションを維持したのか等、市販のテキストでは知ることのできない情報をより身近な存在から知ることができ社内でも好評です。実際、私も今年地質調査技士試験や技術士試験を受験しましたが、昨年度合格された方の学習法がとても参考になりました。

《若手の育成について》

地質調査業界だけでなく、建設業界は若手技術者が少ないイメージがあると思います。当社の採用状況として毎年1～2名程度、新卒を採用していますが、学校で学んできたこととのギャップや複雑な業務内容により伸び悩んでいる若手技術者も少なくありません。また、技術者は経験や知識はもちろんのこと、発注者への説明責任があり、高いプレゼンテーション能力も求められます。そこで当社では、日頃行っている業務に対する理解の促進やプレゼンテーション能力向上のために社内技術発表会を行っています。技術発表会は20代以下の社員全員が対象であり、持ち時間を決めて要点を押さえた発表ができるように努力しています。

《最後に》

今回、拙文ではありますが私の住む湯沢市や会社の事をご紹介させて頂きました。ご紹介するにあたって、湯沢市がどんなことに力を入れているのか、会社の沿革や所属部門以外の方がどんな業務を行っているのか、ロゴマークの由来など、会社には歴史があること、知らないことが多くあることを改めて実感しました。自身の会社を知るこのような機会を与えていただきありがたく思っています。また、何かの機会に秋田県にいらした際には、湯沢市や柴田工事調査株式会社の事を思い出していただければ光栄です。



写真. 本社社屋